

『徳富蘇峰の会・熊本』 発会式のご案内

熊本出身の明治、大正、昭和にわたる偉大なジャーナリスト徳富蘇峰を偲び、
顕彰団体「徳富蘇峰の会・熊本」の発会式を下記要領で開催いたします。
ぜひご来場を賜りたく、ご案内申し上げます。

令和3年 4月29日 (木) (祝日・昭和の日) 14時～16時

※13時30分受付開始

会 場：大江公民館 大ホール

熊本市中央区大江6-1-85

※極力 公共交通機関をご利用ください。

内 容

1. 「徳富蘇峰の会・熊本」の設立にあたって 中村 青史氏
(「徳富蘇峰の会・熊本」 発起人代表・熊本県文化協会常務理事)
2. 会長挨拶 近澤 真人氏
3. 来賓挨拶
4. 祝吟 香雲堂吟詠会 第三代 瓜生田山櫻女史と社中
5. 記念講話 「徳富蘇峰・漢詩集『大江草舎詩録』全訳本の刊行にあたって」

熊本県漢詩連盟 事務局長 林 孝子氏

【徳富蘇峰】

熊本県芦北郡水俣郷の郷士・徳富一敬の長男として文久3年(1863)に生まれた。
熊本洋学校、同志社等に学び、民権私塾「大江義塾」を開き、「将来之日本」
により文名を挙げ上京。明治20年に民友社を設立し、『国民之友』を主宰。
明治23年『国民新聞』を創刊。ジャーナリストとして言論界で活躍した。大正
7年(1918)から書き始めた『近世日本国民史』は、昭和27年(1952)まで55年間
をかけて、全100巻を書き上げた。
昭和32年11月2日、熱海市、晩晴草堂で94年の生涯を終えた。



画：堅山南風画
徳富記念園所蔵

【大江草舎詩録】とは

蘇峰は数え年二十歳前後の当時、蘇峰は熊本大江村で私塾「大江義塾」
を開いていました。蘇峰はこの開塾期を含み明治14年から同17年にかけて
詠んだ漢詩約140首をこの『大江草舎詩録』として編みました。

この詩録はその後上京し、中央で活躍する蘇峰の、いわば思想形成期とも
言える青年時代に詠まれた、熱き情熱とみずみずしい感性に溢れた作品集
です。今回、この詩録をわかりやすく世の中に伝えるため、熊本県漢詩連盟
により初めて解釈本が発刊されました。



青年時代の蘇峰

【徳富蘇峰の会・熊本】

会長 近澤真人 副会長 瓜生田山櫻・船瀬道亮
顧問 中村青史(熊本県文化協会常務理事)・伊藤利明 (熊本高等専門学校教授)

主催 徳富蘇峰の会・熊本

後援 香雲堂吟詠会

後援 熊本県漢詩連盟

後援 同志社校友会熊本県支部

問合せ：徳富蘇峰の会・熊本 事務局 末次 (090-2852-4438)

無料

*換気や3密に気を使いながら開催します。ご来場時はマスクの着用のほどお願いします。